Architectural Institute of Japan

日本建築学会大会学術講演梗概集
（東北） 2009年 8 月

有明海沿岸低平地における景観イメージに関する研究
-小城市芦刈町住民及び旧住民の比較を中心として-

景観イメージ　田園地域
有明海沿岸低平地　居住環境

準会員　福井　幹人 *1
正会員　後藤　隆太郎 *2

1．はじめに

有明海沿岸部は干潟の干拓等による長年の土地造成とともに、平坦かつ広大な農地および集落等の居住地がつくり出されてきた。ここでの風景や景観は極めて起伏の少ない地形上に展開し、近年の耕地整理等により水路や道路網など空間の均質化が進みつつあるともいえる。このような低平地の景観を人々はどのように捉えているのか、本稿では低平地における田園地域の景観イメージの一端を明らかにすることを目的とする。

このことは、低平地といった比較的生産性の高い田園地域においても定住や居住継続の課題があること、また、平坦であるために道路・沿道等の開発行為が容易でありそれに対応するための基礎的な調査と位置づけることができる。

2．調査の概要

本稿では、低平地の田園地域である小城市芦刈町を対象とする（図１）。芦刈町は南に干潟海岸および有明海と接し東西は感潮河川にて区切られる。町全域は干潟の開墾や干拓等により長年の造成地であり、水路（クリーク）網をともなう広大な田園の集落が点在する。

このような芦刈町の景観イメージについて、アンケート調査（2008 年 10 月 -2009 年 1 月）を実施した。具体的には、芦刈に暮らす現住民として、地区住民（芦刈中央部の一つの集落住民35名）、区長会（区長(=集落代表)15名）、婦人会（19 名）、さらに、旧住民として在京町人会（関東在住の旧芦刈住民 13 名）を対象とし、各グループの総会時等にて調査を実施した。以下では主な調査結果について述べている。

3．低平地の景観要素

まず、芦刈町に暮らしている人々はどのような景観要素を大切と捉えているのか、抽出提示した 15 要素（３つまで選択可）および自由記述、に関する調査結果について整理する（図２、表 1）。

3．1　自然的／半自然的要素

全体として、「海・干潟」を多くの人々が選択する傾向がある。住民のいずれのグループ（地区住民、区長会、婦人会）でも海・干潟が最も多く第一位として選択されるが、旧住民にとっては４番目の要素となっている。旧住民の方が選択に幅がある事に対し、住民は有明海・干潟を代表的なものとしてやや固定的に捉えているとも考えられる。

次に多い要素として「水路（クリーク）」および「田畑」があげられる。この二つの要素は半自然的要素と考えることができるが、これは現住民よりも旧住民の人々がより多く選択していることが特徴といえる。自由記述から、「水路（クリーク）」については、旧住民がかつて泳いだり、釣りをして楽しんだ経験を通して記述していることが特徴といえる。

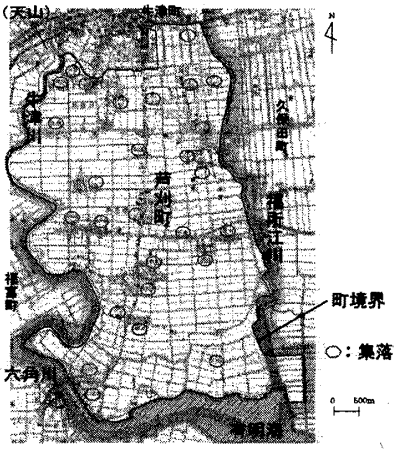

図１　芦刈町の立地環境

3．2　人為的要素

人為的要素は、自然的要素に比べて選択されものが全体として少ない傾向にあ

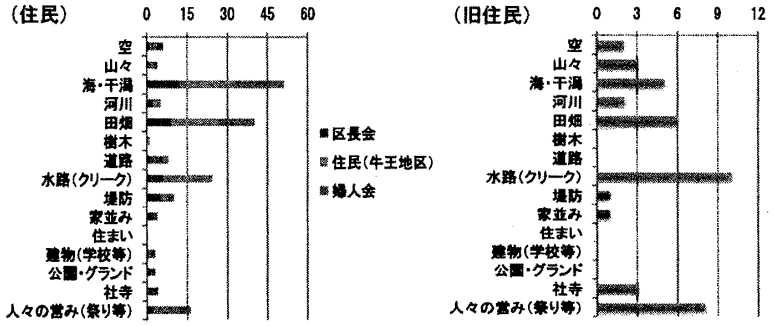

図２　芦刈低平地における大切な景観要素

表１　大切な景観要素の記述（抜粋）

区長会	堤防に樹木があり、秋に紅葉
	クリークのたたずまいと田園風景
	田畑の広々としたところ、干拓の干潟
住民(牛王地区)	夜の星空がきれい
	平坦でのどかな景観が良い
	天山が雄大に見える景色が良い
	干潟の風景
	田舎というイメージが大切
婦人会	夏の入道雲、広い海、穀倉地帯での平野
	昔からの田園風景が良い
	有明海に面した町、ムツゴロウのいる干潟
在京町人会(芦友会)	天山から雲仙岳までの山々の景観は忘れられない
	四季折々の田園風景
	鮒釣りが至る所でできたクリーク
	乙宮神社の相撲大会や沖ノ島参り

Study on image of scenery in low level ground along Ariake Sea
- A case centers round on compared residents with old residents in Asikari area Ogi city -

FUKUI Mikito , GOTO Ryutaro

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

る。公園や住まいの選択は極めて少なかったが、「人々の営み（祭り等）」や「社寺」、「堤防」、「道路」などは少なからず選択されている。

これらについても、現住民に比べて旧住民の方が選択することが多く、自由記述では、相撲大会や沖ノ島参りなどの行事について記述されている。このような物的要素ではない景観要素も芦刈町においては重要といえる。

4．低平地における季節

芦刈町の景観について、季節ごとの特徴や魅力があるのではないかと考え、魅力的に感じる季節とその具体例（自由記述）の調査結果を整理する。（図３）

4．1　春　区長会と地区住民のグループが「春」を多く選択する傾向がある。具体例としては、「平野の麦の黄金色一色がきれい」、「レンゲの花や菜の花、桜の花」などの魅力を述べるものがあった。

4．2　夏　全体として「夏」を少なからず選択している。具体例としては、「緑一面の田園」、「夏祭り」や「川で泳いだり、水路で釣りをする」など経験・体験を述べるものもあった。特に旧住民は多く選択する傾向がある。

4．3　秋　「秋」はいずれのグループからも比較的多く選択される。具体例としては、「稲穂の黄金色一色になった田んぼの景観」など田園の中の稲穂をあげるものが多かった。

4．4　冬　「冬」は全体的に少ない。ただし具体例としては、「雪の積もった一面真白な田んぼ」や「海苔の網干し」、「六角川の船の風景」などの記述がある。

また、すべての季節に共通して、田んぼの景観に関する意見が多かった。春の田植えの風景や夏の一面に広がる緑、秋の黄金色に輝く稲穂、冬の雪化粧で一面真っ白な田園風景に魅力があり、一年の変化を通じた特長がある。

5．景観の変化について

ここでは芦刈町の景観は昔と比べて変わったのか、また、それは良い方向なのか、又は、悪い方向なのか、人々の景観の変化の捉え方に関する調査結果を整理する。（図４）

5．1　変わっていない

区長会と婦人会の人々に「変わっていない」を選択する人がやや多くみられた。婦人会の人々は他地域から嫁いできた人が多く、芦刈での居住年数の短さとの関わりが考えられる。一方で、子供時代から過ごしている区長会の人々に多く、子供時代を中心に過ごした町人会の人々は少ないという結果が出た。

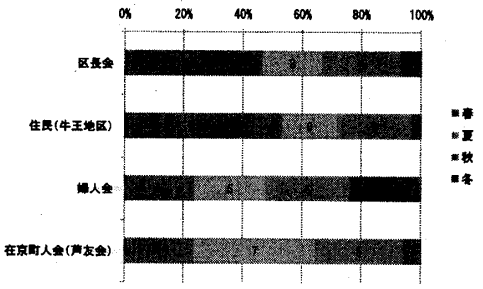

図３　芦刈景観における魅力的な季節

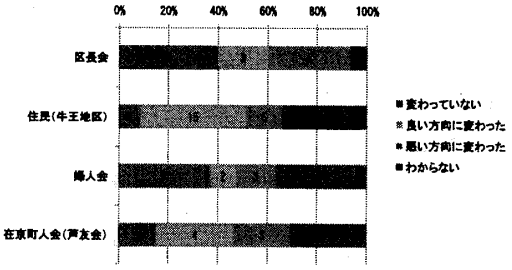

図４　芦刈景観の変化

5．2　良い方向に変わった

地区住民をはじめ「良い方向に変わった」と答える人が少なからずいる。幹線道路などによって整備が進むなど、開発行為が景観の評価を上げる一因となると考えられる。

5．3悪い方向に変わった

区長会や町人会の人々に「悪い方向に変わった」を多く選択する傾向があった。理由として「農薬の流入」や「クリークに生えていたヨシが無くなり、水が汚くなった」、「ほ場整備事業で旧堤防がなくなり堀が狭くなった」などの記述があり、昔のきれいな水路を知っている上記の二つのグループにとって汚れている水路が町の景観の評価を下げる一因になっている。

5．4わからない

婦人会と町人会の人々が「わからない」を多く選んでいる。理由として「道路が整備されることが良い事か悪い事か...」、「道路が変わった事で、地域の様子を全く変えてしまっている」という記述があった。

6．まとめ

芦刈町の景観において、海・干潟は芦刈町の景観の基盤ともいえる重要な要素である。次に、低平地の穀倉地帯に広がる田畑は季節ごとに異なる景観を創り出す、芦刈を代表する大切な要素である。そして、水路（クリーク）は、旧住民の場合をみると、水路で釣りをして遊んだ「体験」を通した心象風景として強く記憶される景観要素といえる。

*1　佐賀大学大学院工学系研究科都市工学専攻　Graduate student , of Civil Engineering , Saga Univ.
*2　佐賀大学都市工学科准教授・博士（工学）　Associate Prof. , of Civil Engineering and Architecture , Saga Univ. , Dr. Eng.

NII-Electronic Library Service